

☆6月の天文暦☆

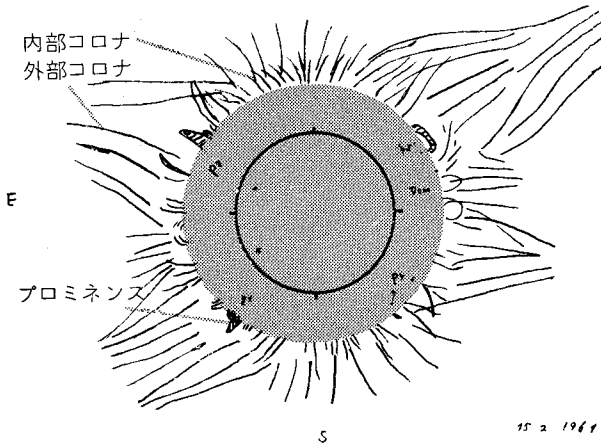
日 時	主 な 天 文 現 象
1 14	火 星 レグルスの 1° 北をとおる
4 10	土 星 留
6 4	火 星 天王星の 0°6' 北をとおる
6 19	芒 種 (太陽黄経 75°)
7 18	望
9 18	水 星 金星の 3° 南をとおる
13 15	水 星 最大離隔 太陽の西 23°
15 6	下 弦
21 21	朔
22 12	夏 至 (太陽黄経 90°)
28 10	水 星 金星の 0°6' 南をとおる
29 5	上 弦

コロナのスケッチ

7月の北海道日食でなにを観測したらよいか、ときどきたずねられるが、コロナの観察などはよい答の1つだろう。太陽面の細部が目に見えても撮影がむずかしいように、コロナの細かい模様も写されておらず、望遠鏡をとおして見たようすは、写真とはかなり異なるという。

内部コロナの観察には、黒点観測用でいどの小望遠鏡で、皆既の太陽を見る。ケント紙に直径 5cm の円を書いて太陽と考え、この上にコロナの光の線を、位置・方向に注意してスケッチする。30秒という短時間に太陽の全周を見るのはむずかしいから、3, 4人で分担して観察するとなおよい。太陽面の方位は、黒点観測に準じて、あらかじめ正確に調べておく。外部コロナの観察は双眼鏡を使うが、記録のしかたは内部コロナと同じである。

図は、1961年2月15日地中海で見られた日食の、東京天文台・西恵三氏によるスケッチである(天文月報55巻63ページ以下に説明がある)。内部コロナは、ぼんやりひろがった光をバックにして、細い極めて多くの明るい光の線が髪の毛のようになっている。図にはそのうち著じるしいものが画かれている。外部コロナの光の線は同時に行なわれた他のスケッチから画いた。この図を写真とくらべてみると、おもな模様は見事に一致している。



東京における日出入および南中(中央標準時)

VI月	夜明	日出	方位	南中	高度	日入	日暮
日	時 分	時 分		時 分		時 分	時 分
1	3 50	4 27	+27°9'	11 39	76°2'	18 51	19 27
10	3 47	4 25	+29.4'	11 40	77.3'	18 56	19 34
20	3 47	4 25	+30.0'	11 42	77.8'	19 0	19 38
30	3 50	4 28	+29.7'	11 44	77.6'	19 1	19 39

各地の日出入補正值(東京の値に加える)

(左側は日出、右側は日入に対する値)

鹿 児 島 +48 +25	鳥 取 +24 +22	仙 台 -11 +3
福 岡 +44 +32	大 阪 +20 +14	青 森 -19 +12
広 島 +34 +26	名 古 屋 +14 +10	札 幌 -29 +17
高 知 +32 +19	新 潟 +3 +9	根 室 -47 +1

